4．警察への協力

（1）協力可能な時間

市民はどの程度警察の捜査に協力し、時間を提供できるものなのだろうか。回答者に「あなたが警察の捜査に役立つ情報を持っている場合、どの程度の時間なら捜査協力のために時間をさいてもいいと思いますか」と訊ね、「1時間程度」「2～3時間程度」「半日」「丸一日」「2日以上でもかまわない」「協力しない」という選択肢から選んでもらった結果が図表4－1である。

図表4―1　警察への協力可能な時間

（%）

	1時間	2～3時間	半日	丸一日	二日以上	協力しない
全体	38	32	13	4	10	2
男性	40	29	12	5	11	2
女性	36	35	14	3	9	3
10代 男	36	29	11	4	18	4
女	17	22	17	13	30	0
20代 男	33	29	13	8	13	4
女	34	38	18	4	3	3
30代 男	45	32	7	3	11	3
女	40	30	14	3	10	4
40代 男	47	28	14	3	7	1
女	35	37	16	3	7	2
50代 男	44	29	18	2	8	0
女	39	39	11	1	7	3
60代 男	26	22	13	17	22	0
女	39	44	4	0	9	4

全体でみると「協力しない」という人はごくわずかである。「1時間程度」が最も多くほぼ4割、「2～3時間」が3割強、「半日」になると1割強と、長時間になるにつれ減

っていくが、「２日以上でもかまわない」という人も１割いる。顕著な性差はみられないが、男性の方が「１時間程度」がやや多く、女性の方が「２～３時間程度」がやや多いといった傾向がある。

性・年代別にみると「２日以上でも」は、男性では１０代と６０代、女性の場合は１０代に多く、職業別でみても「学生」と「無職」に多いことから、仕事時間にくいこむことを心配しないですむ限られた生活スタイルの人たちであることがわかる。４０代男性の場合は、「１時間程度」がほぼ５割（４７％）にのぼっており、時間的余裕のなさもうかがわれる。女性の協力可能時間が男性より長めなのも職業をもたない人（専業主婦）が女性回答者に多かったためかもしれない。

１～３時間の範囲を選ぶ人が多いなかで、管理職や自営業の人より、勤め人の方が、また勤め人よりもパート・アルバイトの人の方が、短時間の協力で済ませたいという傾向がみられた。それだけ自由裁量できる時間が限られているためだろう。

警察官との会話経験の有無と、協力可能時間を対応させてみると、会話経験が全くない人は、過半数が「１時間程度」と短い時間を指定している点が特徴的である。その一方で「丸１日」「２日以上」も可とする人もいるなど、警察との関係が遠いために、捜査協力といった事態を予測することも非現実的である様子がみられる。

市民が妥当だと思う以上の時間を拘束することにより、警察への協力が得にくくなることは避けなければなるまい。「半日」を上限とし、１～３時間を妥当とするのが「市民的感覚」といったところであろう。

（２）警察に協力しやすいか

市民が協力しやすいと感じているかどうかは警察が市民の協力を得る上での重要な点である。そこで、「あなたは、現在の警察について、協力しやすいとお感じになっています

か」と訊ね、「非常に協力しやすい」から「非常に協力しにくい」までの５段階で回答してもらった（図表４－２）。

図表４―２　警察への協力しやすさ

（%）

		非常に協力しやすい	やや協力しやすい	どちらでもない	やや協力しにくい	非常に協力しにくい	加重平均
全体		2	12	50	25	10	-0.29
男性		3	13	46	25	12	-0.32
女性		2	11	55	25	8	-0.27
10代	男	0	14	39	32	14	-0.46
	女	0	0	57	35	9	-0.52
20代	男	5	9	46	25	15	-0.36
	女	1	9	56	21	13	-0.35
30代	男	1	8	39	32	19	-0.59
	女	0	9	49	33	9	-0.42
40代	男	1	12	57	20	10	-0.24
	女	4	19	57	16	3	0.06
50代	男	5	24	43	22	6	-0.02
	女	1	11	59	23	6	-0.20
60代	男	0	17	57	22	4	-0.13
	女	0	13	48	26	13	-0.39
職業	事務系・技術系勤め人	2	9	47	31	11	-0.38
	販売・労務系勤め人	3	13	55	21	8	-0.18
	管理職（課長以上）	5	21	44	22	8	-0.08
	商工自営・自由業	2	12	59	20	8	-0.20
	学生	2	9	49	29	11	-0.36
	専業主婦	0	12	52	26	11	-0.36
	パート・アルバイト	3	13	51	24	10	-0.26
	無職	0	21	53	16	11	-0.16
	その他	3	11	47	21	18	-0.42
警察官との話経験	何回もある	3	17	46	23	12	-0.24
	少しはある	2	11	52	26	10	-0.31
	全くない	0	9	57	30	4	-0.30
警察への協力可能時間	一時間程度	2	11	50	25	12	-0.36
	二～三時間程度	1	12	51	30	6	-0.28
	半日	4	20	58	17	1	0.10
	丸一日	7	11	50	21	11	-0.18
	二日以上	2	7	49	27	16	-0.49
	協力しない	0	13	19	13	56	-1.13

全体的には、「どちらでもない」が半数で、「非常に協力しやすい」はごくわずか（２％）であり、「やや協力しやすい」（１２％）、「やや協力しにくい」（２５％）、「非常に協力しにくい」（１０％）となっている。「やや協力しにくい」と「非常に協力しにくい」を合わせると、全体の３分の１以上の人が警察には協力しにくいと感じており、これは「協力しやすい」（「非常に」と「やや」の合計は１４％）と感じている人の倍以上であることが明らかになった。

「非常に協力しやすい」に２点、「非常に協力しにくい」にマイナス２点を与えて加重平均を数値化した結果を図表４－２の右欄でみよう。

性別では比べると、男性の方が女性よりも協力しにくいと感じていることがわかる（男性は－０．３２、女性は－０．２７）。同様にして性・年代別の結果をみると、協力し難いとの感じ方が顕著なのが、男性の３０代（－０．５９）と女性の１０代（－０．５２）、逆に協力しやすく感じているのが、女性の４０代（０．０６）に次いで男性の５０代（－０．０２）である。

またこれを職業別にみると、事務系・技術系勤め人（－０．３８）、学生・専業主婦（－０．３６）が協力しにくいと感じ、管理職はさほどでもない（－０．０８）といった違いがみえる。

警察官との会話経験頻度と、警察への協力しやすさの関係をみると、会話経験が「何度もある」人の方が「少しはある」人よりも、協力しにくさを感じる度合いが少ない。一方、「全くない」人と「少しはある」人とが同程度の「協力しにくさ」を感じている。

次に、協力のしやすさと協力可能時間の関係をみよう。「協力しない」という拒否的な態度をもつ人の過半数（５６％）が「非常に協力しにくい」と答えている。

ただし、協力可能時間と協力しやすさとは直線的な関係ではなく、協力可能時間別にみると、最も協力しやすさを感じているのは、協力可能時間「半日」のグループである（ほぼ６割が「どちらでもない」としている）。「半日」を境にして、それより短い協力時間

をあげた人も、長い時間をあげた人も、より協力しにくく感ている。つまり「２日以上でもかまわない」と言っている人は、同時に協力しにくいとも感じているのである（－０．４９）。

警察に協力しにくいと感じているが、一方で協力すべきとも考え、「２日以上でもかまわない」とかなり無理をして答えている人びとなのかもしない。

（３）警察に求める「親しみやすさ」と「厳しさ」

警察には厳しさと親しみやすさの両面がどのような比重で求められるのだろうか。

「警察が市民の信頼を得るには『親しみやすさ』が必要です。一方、犯罪を抑止するには『厳しさ』が必要です。合計を１０としたとき『親しみやすさ』と『厳しさ』の比率はどの位がよいと思いますか」と訊ね、１０―０から０－１０までの１１の組み合わせから１組を選んでもらった。その結果を回答類型別に示したのが図表４－３である。

全体では、ほぼ４割が半々のバランス（以下、「バランス型」と呼ぶ）をのぞみ、「親しみ」に比重をおく者（「親しみ」と「厳しさ」の比率を１０－０・９－１・８－２・７－３・６－４とする者。以下「親しさ偏重型」と呼ぶ）は２５％、「厳しさ」に比重をおく者（「親しみ」と「厳しさ」の比率を０－１０・１－９・２－８・３－７・４－６とする者。以下「厳しさ偏重型と呼ぶ）が３６％である。「厳しさ偏重型」が多いものの、「親しみ」についてもかなり重視する人がいることがわかる。

性別でみると、「親しさ偏重型」の比率には顕著な差がみられないが、「厳しさ偏重型」は男性の方が１０ポイント近く多く、男性の方が警察に「厳しさ」を期待していることがわかる。

さらにこれを１０歳ごとの年代別にみた場合、４０代の男性が他の世代とは違った特徴をみせている。多くの世代で「親しさ偏重型」が４分の１以上を占め、とくに１０代、２

０代といった若者でその率が３割を越えるのに比べ、４０代の男性には「親しさ偏重型」が１５％しかいない。他の世代より１０から２０ポイント以上少なくなっている。

女性の場合も同様に「親しさ偏重型」は４０代だけ目立って少ない。ただし、女性の場合は、４０代は「バランス派」も幾分多くなっている。

２１世紀の犯罪の増減予想で「犯罪が増える」（「少し増える」「大幅に増える」）と予測した人達が、この点をどのように考えているかをみよう。「親しさ偏重型」は両者ともに４分の１程度である。「犯罪が大幅に増える」と予測した人の方が「少し増える」と予測した人よりも、「厳しさ」を求めているわけではなく、「バランス型」が多いというのは興味深い結果である。犯罪の増加を予測してはいるが、その抑止のためにより「厳しさ」を求めてはいないのである。

さらに、女性警察官を増やしたいという希望と、警察への「親しさ」「厳しさ」比率の増減とになんらかの関連がみられるのかどうかを確かめてみることにしよう。

女性警官増減希望別に「減少希望群」「現状維持群」「１割増加希望群」「２割増加希望群」「３割増加希望群」とグループ化して比較してみた。

女性警察官の増加希望と「親しさ偏重型」の増加は正の関係にはなっていない。どのグループも「厳しさ偏重型」の率はほとんど違わず３５％前後である。違いがみられるのは「バランス型」の比率である。「減少希望群」では、「バランス型」が３割を下回る（２８％）が、「３割増加希望群」では４５％と１５ポイント以上の差がある。

興味深いのは、「減少希望群」では「親しさ偏重型」がむしろ多いことである（３４％）。そして、女性警官の増加を希望する回答者は、「１割」２割」「３割」と女性増加率が上がるほど、「親しさ偏重型」の率がわずかながら減る。

つまり、女性警察官増加の希望をもつ者が厳しさよりも親しさに比重をおくような警察のあり方を求めているのではなく、そのバランスを求めているということがあきらかになったといえよう。

厳しさと親しさを兼ね備え、しかもそれがバランスのとれた状態で保持される警察とはどのようなあり方なのか、さらに検討する必要があろう。

図表4—3　「親しみやすさ」と「厳しさ」

（%）

		親しさ偏重型	バランス型	厳しさ偏重型
	全体	25	40	36
	男性	27	33	40
	女性	22	47	31
	10代 男	47	32	22
	女	30	39	31
	20代 男	31	29	39
	女	28	48	24
	30代 男	27	30	44
	女	23	47	30
	40代 男	15	38	47
	女	10	53	37
	50代 男	25	35	40
	女	20	47	33
	60代 男	26	39	35
	女	35	30	35
21世紀の犯罪増減予測	大幅に増す	24	43	33
	少し増す	24	35	41
	変わらない	30	39	30
	少し減少	0	50	50
	大幅に減少	0	0	0
女性警察官増減希望	減少希望	34	28	38
	現状理想	27	36	37
	10%増加希望	25	41	35
	20%増加希望	24	41	36
	30%以上増希	21	45	34